

「大隈祭」における講演活動

今年も佐賀市大隈記念館において、大隈重信の偉業を追想し顕彰するため「大隈祭」が開かれた。佐賀市大隈記念館保存会が主催し、早稲田大学、早稲田大学校友会佐賀県支部、北水自治会・北水公民分館、片田江商店連盟が協力する春の恒例イベントである。最近では祭典・式典のほか、大隈スピーチコンテスト（テーマ「大隈重信に学ぶこと」）に入賞した小中学生によるスピーチなども行われている。

大学史資料センターでも講演者を派遣し、大隈重信に関わるトピックをより多くの方々に分かりやすくお伝えすべく努めている。ここでは、佐賀市との交流促進のため、毎年講演者を派遣するようになった二〇〇八年以降の講演者・演題及びその内容を簡単に振り返り、その上で今年の「大隈祭」（二〇一一年五月一五日）における講演概要をご報告することとしたい。なお、講演者の所属はすべて講演当時のものであることをお断りしておく。

▽二〇〇八年五月一日

講演者 荒船俊太郎（大学史資料センター助手）

演題 今、大隈重信を学ぶ

要旨

現在、佐賀県出身者に関わる資料の発見・刊行が相次いでいるが、県七賢人の筆頭格・大隈重信に関する研究は、残念ながら停滞気味であるといわざるをえない。しかし、明治初年以來半世紀にわたり国政の中枢に位置し続けた大隈には、いまだ手つかずの事績が数多く残されており、新たな大隈像を打ち出すことは決して難しいことではない。最晩年に大正天皇および皇太子（後の昭和天皇）の相談役として、「国家の最高顧問」の役割を果たしたことは、その軸となるものである。

▽二〇〇九年五月一〇日

講演者 真辺将之（大学史資料センター助手）

演題 大隈重信の文明運動と人生百二十五歳説

要旨

大隈重信といえば「庶民的政治家」として知られている。例えば二度目の内閣を組織した際の国民的人気は素晴らしいものであった。しかし実はそうした人気は当初から存在したわけではない。「庶民的政治家」大隈が誕生する背景には、文明運動と人生一二五歳説があったと考えられる。文明運動とは大隈が行った文化的活動の総称であり、「東西文明の調和」という理念のもとなされた大日本文明協会の活動などが該当する。人生一二五歳説は、周知のように、大隈の明るく前向きな人生観を象徴するものであり、庶民層の人気を呼び起こす大きなきっかけともなった。

※なお講演に先立って、大学史資料センター所長に代わり、安在邦夫（早稲田大学教授）より挨拶があった。

▽二〇一〇年五月九日

講演者 望月雅士（大学史資料センター非常勤嘱託）

演題 大隈重信への提言——佐賀の同志たちは大隈に何を語りかけたか

要旨 大隈重信に宛てられた書翰の中から、特に佐賀県出身の人物を選び、彼らが大隈に何を語りかけたのかを

紹介する。例えば佐野常民は、明治一四年の政変直後、しばらくは静養し、沈黙を守るよう勧めている。

また大木喬任は、伊藤内閣の外相就任を求められていた大隈に対し、「主義」を貫くのではなく「折合」を重視するよう求めた。さらにパリに在住していた織田萬は、当時外相であった大隈に外交官養成の重要性を説いている。このように、佐賀の同志たちは様々な思惑をもって盛んに大隈に語りかけていたのである。

（文責・伊東久智）